

の運行を、一時間と三十分とを、其の影によりて知らんとせり。而して、其の計量線は、恰もグラッサムの緯度と適合せることは、彼未だ之を知らざるなり。

然れども、彼の此の業や、實に成功せりと云ふべし、斯くて幾年精密に觀測せし結果、人々の時を知るを得るは、全く其の賜に頼るに至りしかは人呼で、アイザック時表と云へり。其のウールソープの居室の壁に、二つの時表を彫刻せるは、恐らくは此の時に在らんか、其の一は、今、現に、皇室博物館に在り。

(未完)

一の組保育誌 (つゝき)

ふ み 子

一、幼兒一般の特別なる傾向、并に之に對する處

置及傾向の變化と之れが原因と認むべき條項

五十六

三の組 (滿三年より四年までの兒) 時代には在籍幼兒數三十三人なりしも寒さのため、十一月頃より引つゝきて欠席多く、日々の出席平均は凡そ二十人余なりき。従つて保育し易く、幾分か思ふまゝになり、幼兒の各々につきて注意し、かつ導くことも出来、希望をもて二の組 (滿四年より五年までの兒) に移りたり。さて二の組になりては如何といふに一時は實にかなしむべき有様に陥りたり兼ての豫想は全くはづれて只日々消極的に保育することにのみ汲々たりき、而して尙それさへも我力に叶はざりき、そは何がためなるか、四月の初に十二人の新入兒をいれしと、三の組時代に引つゝきて欠席せる兒が氣候の暖かきによつて一時に出席せしとによる(それ等は新入同様の兒なり)

この時に於て三の組時代につくりし組の風はほとんど破れんとしたりき。加之手の届かぬ結果知りつゝも、よからぬ方に赴く幼児をひきとむる才能はざる場合もありき。實に過去三年間を追想すれば此時ほど保育上の困難を感じたるをなし。これ四月中旬より五月初旬に至るまでの有様なりしか五月中旬にいたりてやうやく回復の運に向ひたり。而して此の間に特別なる傾向の萌芽をして十分發育せしむるの余たをあたへたり、即新入兒岩田泰二が衆兒の上に立ちて遊びの原動力となり、統御者となりて大に權力を振ひ、普通の兒また其の力にふそれてこれ命これ従ふの有様を生じたるなり。この兒性來我儘にして不従順、舉止亂暴にして、ことあれば直に魔力に訴へんとする僻あるをもつて三の組時代に衆兒とたのしく遊びし優兒

や新入兒中の望みありとかもはるゝ兒の五六人は自然に岩田の仲間を離れて局外者となれり。かくてこの傾はだん／＼強くなり岩田の勢力は益加はるにいたれり。實にこの兒一人に對する取扱はるるに於て二の組全体に大關係を有するなり。こゝに於て二の組の終りには將來岩田の勢力を抑へんか、はた之を利用せんかにつきて考へたり。而して熟考の末遂に前者の方法をとるべく決したり。何となればこの兒は統御者として多數の兒の上に感化を蒙らしむべき良き兒にわらず。尙岩田の我儘を増長せしめ、衆兒の卑屈をます患ありしとまた他方に於てはこの兒元來勢力家に相違なきも其の下に従ふは普通及普通以下の兒にして優兒は決して其仲間に加はらざるをもつて之を抑ふることは左程難きにわらざるをかもひてなり。由て一の組に至り

て第一にこれを實行したり。然れともこれ迄主導者となりて自由にはたらしし兒を急激に抑ふるはよろしからず。又この兒をして抑制を加へられつゝあることを悟らしむるは害あるをもて、なるべく知らざる間にするこの必要をおもひ、まづ室内の席列に於て其の周圍に男女兒中の優れたるものを置き、以て其の權力を逞しくすること能はざらしめ、また一方には成べく保母に接近せしめんため保母に近き前列に置きたり。この境遇はこの兒のため、よき効果を得たり。即ちこの兒は運動的の兒なるをもつて遊嬉の主導者になることは巧みなれとも靜にして深く考ふることは不得意なりき、さるに漸次自分の周圍の兒の特技の成績を見て羨しく思ひ熱心につとむるに至れり。従て心を靜にし氣を平かにして深く考ふるの習慣を得、尙

隣席の優兒と次第に親み遊ぶに至れり。

以上の取扱方は確に効果ありといへともまた他に一の原因あり。即ち上の組より來りし男兒山口に衆兒の人望の歸せしことこれなり。この兒は已に就學年齢に達したるも尙一年幼稚園にとまるとにいたりしものなるが、この兒また率先して遊嬉の主導者となり、よく遊ぶを以て自然勢力あり、人望あり。かくてこゝに從來の岩田に匹敵すべきもの呈はれしをもて勢ひ衝突なかるべからず以前は軍ごつこの遊びに於て岩田が總大將となりて射撃の眞似なとせしが一の組となりて後は二組に分れ岩田、山口各大將となり、兩軍戦をなすといふ様に變じ、時には只遊びとしての軍ごつが眞面目の腕力の争となることもありしが、間もなく自然に岩田の屈するに至るべきを思ひ害なき限

りは許し置きたり。然るに果して五月中旬にいたりて山口が岩田の上にいづるにいたり、人望は次第に山口に集まれり、山口は優児といふにはあらざれども正直にして義侠心ありよく同組中の弟を撫し何れの兒に對しても親切なるをもてみな喜んで其下に遊ぶにいたれり。かくて終りまで此の傾を以て繼續したり。

以上は男兒間の傾なり。女兒間にはさしたることなし。

### 幼稚園の遊戯 (その四)

松村 ひさこ

(12) 即席の遊に付て  
 之は詞も音楽もなしに即席にする遊なので、語り  
 きかせた談話の發表とか、又は幼稚園に来る途中

で見ても来た事の眞似とかを子供が演ずるのであつて、偶發のものであるが、子供にとつては興味の  
 ある事で、思想の上にもはたらしの上にも誠に價  
 ある事である。と説いてありますが、子供はよく  
 桃太郎の話のあとで、桃太郎、鬼、犬、猿、雉な  
 どになつて話を具体的に實現して見たたり、電車を  
 見たといふので自分が電車になつて駈け出した  
 り、動物園を想起して象や虎や熊や孔雀になつて  
 遊ぶなどの事をするものでございまして、しかも  
 これ等は全く自分でしようと思つてするのでござい  
 ますから、非常の興味と熱心とを以て演ずるのが  
 常でございします。そうして其間に、おぼえて居る  
 といふ事、思ひ出すといふ事、之を發表するはた  
 らきなどが練習されて居りますので、子供の心身  
 發達上有益な事柄でございします。さうして幼稚園